

平成30年度 第1回学校運営協議会 議事録

岐阜市立岐阜商業高等学校

- 1 名 称 学校運営協議会（第1回）
- 2 構 成 委 員 安藤 久男 鏡島自治会連合会会長（第1回欠席）  
竹本 康史 岐阜聖徳学園大学教授  
山内 義孝 (株)サムソンフィクセル社長  
山崎かおり 元PTA副会長  
松原 新敏 精華中学校PTA会長  
杉本 信康 PTA会長  
学 校 側 大矢 晋 校長  
上田 義広 事務長  
下平 義広 教頭  
浅井 智世 教務主任  
那須 貴 生徒指導主事  
杉山 明宏 進路指導主事  
秋田 和哉 特別活動部長  
今井 哲 商業教育部長
- 3 目 的 保護者や地域住民と目標やビジョンを共有して連携を深め、家庭や地域と一体となって生徒を育む「家庭・地域とともにある学校づくり」を推進する。
- 4 日時・場所 [日時] 平成30年6月19日（火）13:30～14:30  
[場所] 校長室
- 5 協議概要
  - (1) 挨拶（校長）

岐阜市の全小・中・特別支援学校がコミュニティースクールとなっていることから、本校も今年度より、学校評議委員会を改め学校運営協議会とした。地教行法第47条の6に基づいて設置されるもので、保護者や地域と連携して生徒を育てるのが目的であり、今年度から県内全小中学校、高校14校でスタートし、高校は今後順次設置されていく予定である。委員の皆様には忌憚のないご意見をお願いしたい。
  - (2) 運営協議委員の委嘱  
校長から委員5名に委嘱状を交付  
※欠席の1名（安藤久男委員）については、後日交付
  - (3) 日程説明（教頭）
  - (4) 授業の見学  
第5限の授業（2年「財務会計Ⅰ」1年「情報処理」等）を見学

(5) 会長選出

会則第3条4号に基づき、会員の互選により、「竹本 康史」岐阜聖徳学園大学教授を会長に選出、副会長は校長とする。

(6) 学校の教育方針、教育目標の承認

校長の示した教育方針（教育目標・学校経営の重点）を協議のうえ、5名の委員の承認を得た。

(7) 学校運営に係る協議

ア 本校職員による説明

関係分掌長がマニフェスト資料、学校要覧及び学校案内を使用し、過去の実績や成果の報告とともに、本年度の重点目標や具体的な取組等について、説明、提案した。

・教務部

「わかる授業・楽しい授業を追求」、「アクティブラーニングの推進」、「生徒たちの主体的な学びを促す」等を重点に取り組む。

・生徒指導部

「市岐商ブランドの確立を目指し、挨拶、身だしなみ指導等を徹底」「早期の対応によるSNS関連トラブルやいじめ等の防止に向け、生徒の観察・把握に努める」「交通安全指導の徹底」等を重点に取り組む。

・進路指導部

「学力向上のため外部模試（実力テスト）の活用を促進」「職員面接の練習回数増とOB面接の充実等による就職・進学試験対策の強化」「生徒の目標とする進路実現に向けたサポートの充実」等を重点に取り組む。

・特別活動部

「地域行事への参加等、地域と連携したボランティア活動の拡充」「市民講座の開催等、地域貢献のためのボランティア活動の推進」「運動部及び文化部の更なる活性化と計画的な練習の推進」等を重点に取り組む。

・商業教育部

「地域から愛される学校、地域との連携で成長する学校を目指し、市民対象の商業関係講座、中学校への出前講座の拡充」「スクールデパートによる地域貢献」等を重点に取り組む。

イ 各委員からの意見等

意見1 先生方の働き方改革について、小中学校では一斉休業日を設けたり、中学校の放課後の部活動はPTAが監督する等を実施しているが、高校ではどうなっているのか。

[回答] 中学校ほど進んでいないが、スポーツ庁の運動部活動に関するガイドラインに準じて変革できるように、昨年度から部活動において週1回の休みを必ず入れるなど、生徒の健康維持、職員の健康維持に向けた対応を行っている。しかし、遅くまで活動している部もあるのが現状であり、職員面談では、定期的な休暇の取得等をお願いしている。

職員の休みが少ないのは事実だが、本校で部活動がやりたくて入学してきた子どもたちが望むなら、少しでも活動をさせてあげたいと考える職員も多い。今後、時間を縮小して生産性を上げる練習の在り方も工夫したい。

意見2 遅くまでの練習をなくしたり、休養が多くあるのが当たり前になってきているが、そうした環境で育った子どもたちが企業に入ってからどうなるか、卒業後、どのような意識で働くかは難しい課題である。実際に私が経営する会社の美容室でも、かつては新入社員が営業時間終了後に練習していることが多かった。しかし、今は働き方改革で、早朝に練習する場面は時々見かけるが、夜残業しての練習は行なっていない。

意見3 教育は、「何より子どもに寄り添って」ということを第一に考えるべきである。大学の卒業生で教員になった者が「モンスターペアレントがいて困っている」と相談してきたが、「親にとって子どもは宇宙よりかわいいから、その子のいいところを見つけて話をし、指導しなさい」とアドバイスをしたところ、教室の環境が劇的に変わり、保護者からお礼の言葉までいただいたそうだ。働き方改革といっても教育現場には割り切れないことがある。本校も先生方が寄り添った教育を実践しているから、資料にあるような多くの成果が出ているのではないか。今後もおごらず、しかしプライドを持って職務にあたってほしい。

意見4 今、スマホによるトラブルが多発傾向にあるが、本校のスマホ所持率はどれくらいか。

[回答] ほぼ100%持っている。ただし、ここ2、3年はスマホトラブルも落ち着いている印象がある。県のネットパトロールも外部委託され監視が強化されてきている。本校では、スマホを持っていることを前提に授業や集会で話をする等、対策指導を進めている。今後も気を緩めず、事前指導を徹底し、事故の未然防止に努めたい。

意見5 「市岐商ブランドの確立」という言葉が好きである。まさにそれを体現しているようで、生徒も先生も気持ちよく挨拶され、すばらしい。社会人になるにあたって大切な事であり、これからは是非続け、市岐商ブランドを確立・維持して行ってほしい。

意見6 本校の生徒で入学時から進路目標のはっきり決まっている子はどれくらいいるのか。

[回答] 正確に調査していないが、概ね1、2割程度だと考えられる。

意見7 私の息子もまだ進路を決めていないようだが、本校の学習とは違う方向の進路も考えているようだ。保護者として、子どもの意見を聞き、しっかり相談しながら見守ることを心がけたいと思っている。学校でも支援をお願いしたい。

意見8 保護者が学校に対してもっと寛容になれば、学校の運営はもっとうまく行くと考えている。全国PTAの会議でも推進しているが、「親がもっと寛容で賢くなる」という講習会も行われている。学んでほしいと思う親はなかなか参加いただけないが、「親としてもう少し学ぼう、賢くなろう、頑張ろう」とする姿勢を保護者全員が持てるよう努力している。学校との連携がうまくいくよう今後も保護者として学んでいきたい。

## (8) まとめ (校長)

本校の教育方針及び重点目標や具体的な取り組みについて、委員の方々にお認めいただくとともに、貴重な意見をいただくなど充実した協議が行えた。いただいたご意見等は、生徒の豊かな成長につながられるように、今後の学校運営に反映させたい。今後も「家庭・地域とともにある学校づくり」を推進するため、皆様のご協力をお願いしたい。